

第16期 第7回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 令和元年10月31日（木）午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 市役所 庁議室
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、水野委員、市川委員、田中委員、白井委員
八田委員、千葉委員、菊地委員、和田委員、加藤委員、大久保委員、
栗原委員（順不同）
- 傍聴人 0名
- 議題 (1) 第16期小平市緑化推進委員会の検討課題について
(2) その他
- 配付資料 (1) 第16期小平市緑化推進委員会現地視察の報告について
(2) 小平市のみどりに関するアンケート調査の概要
(3) みどりの基本計画改定に係る地域懇談会の実施について
(4) 砂川用水の動向
(5) 第7回第16期小平市緑化推進委員会：緑化推進に向けた個別プロジェクトの提案
(6) 「緑化推進」政策について
(7) 第16期小平市緑化推進委員会 提言報告書（案）

会議の要旨

まず、事務局より、配付資料（1）「第16期小平市緑化推進委員会現地視察の報告について」、（2）「小平市のみどりに関するアンケート調査の実施について」、（3）「みどりの基本計画改定に係る地域懇談会の実施について」の説明があった。説明後、次のとおり質疑があった。

委員

計画改定のスケジュールについてお伺いしたい。

事務局

改定については今年度と来年度の2か年で行う予定である。今年度については、み

どりのアンケートと地域懇談会で市民の方からご意見をいただき、素案の検討を行う。来年度については、年度の途中で素案の公表とパブリックコメントを実施し、さらに検討を重ねた上で来年度中に策定する予定である。

続いて、委員より、配付資料（４）「砂川用水の動向」、（５）「第７回第１６期小平市緑化推進委員会：緑化推進に向けた個別プロジェクトの提案」、（６）「「緑化推進」政策について」の説明があった。

説明後、次のとおり質疑があった。

委員

高杉商事の裏から喜平橋の中間あたりが土砂で埋まっているところがあるのではないか。そのせいで喜平橋から下流に水が流れなくなっているように思う。

事務局

台風の影響などにより、喜平橋以降まで水が流れることがあるので、その付近も用水路の形態として残っていると思われる。

委員

流水が確認できるのはおそらく雨水であり、実際に用水の水が流れていないと思う。

委員

稲荷神社から少し先に行ったところで排水口のようなものがあるが、何のためにあるのか。

事務局

喜平橋付近には、逸水防止のため取り込み口が３か所ほどあり、水量が多くなったときには下水道へ流れるようになっている。

委員長

流末にそのような排水口を整備できないのはなぜか。

事務局

砂川用水は現在基本的には西武多摩湖線の線路付近までしか水が流れていないことから、流末にそのような排水口を整備していない状況である。

委員

「小平市の環境」を見ると延長が短くなっている用水があるがその理由は。

事務局

実際に水が全く流れておらず、また用水路の形態となっていないところについては用水路整備活用計画に基づき、売り払いを行っているため、延長が短くなっている用水路がある。

委員

ビオトープ公園の管理は誰が行っているのか。

事務局

清掃や草刈りなどはシルバー人材センターに業務委託している。

委員

水路部分の管理があまりできていないように感じるので、もう少し手入れをしっかりとやったほうがよいと思う。そこで水量が変化すると思われる。

委員

ビオトープ公園に管理棟のようなものがあるがどういう扱いか。

事務局

ビオトープ公園の下を武蔵野線のトンネルが通っているので、その管理施設であると思われる。ビオトープ公園にある立坑はトンネルの勾配の途中にあるため、地下水の貯留施設をつくるのは難しく、砂川用水へ流すのは厳しいと思われる。津田塾大学南側にある玉川上水緑道の立坑からは以前、地下水をポンプアップして新堀用水へ流していたことがある。

委員長

津田塾大学南側の立坑からポンプアップし、管をつないで砂川用水へ流すのがよいと思う。実際に三鷹市では仙川を下流の湧水からポンプアップして上流へ流がし、水が循環しているような事例もある。

委員

けやき公園はどういうものか。

事務局

土地自体は小平市にあるが国分寺市の公園であり、管理も国分寺市が行っている。

委員

現在も行われている中央公園の樹林で常設のプレーパークができるのではないかな。

委員長

国分寺市や武蔵野市のようにプレーパークの常設化を考えるなら、現在利用している団体を常設化することが現実的であると思う。

仲町第2公園については相手方に利点があるような提案ができればよいが。

委員

仲町第2公園は隣接する中古車会社の展示場があるので、公園に人が増えることで、展示場にも来場者が増えることにつながる。そのような視点で公園の整備に民間の力を活用できればよいと思う。

委員

ふるさと納税の返礼品を体験型にするという案では、ハンギングバスケットづくりやコミュニティガーデンづくりがそれに当たると思う。

委員長

結局のところ、お金を払うわけなので、それなりに魅力のある体験を商品化することが必要になってくる。また、小平らしさを出すとしたら雑木林や用水に関連することになってくる。考え方自体はおもしろいと思うので、あとは具体的な案をつくれるかどうか。

続いて、委員長より、配付資料（7）「第16期小平市緑化推進委員会提言報告書（案）」の説明があった。

説明後、次のとおり質疑があった。

委員

緑に関わるボランティア数は年々減少傾向にあると思うが、人材確保はどのようにすればよいか。また、マーケティングにこだわって緑化を進めるだけではよくない。健康な市民生活を維持するための緑化が大前提であると思う。

委員長

提言書（案）にも書いてあるが、「みどりの学校」がボランティアの人材育成に関する提案となっている。

全体的な提案については、マーケティング視点以外のものも入れていくようにする。

委員

以前の提言にも出ているが、水車公園をクラウドファンディングでつくれるのではないか。例えば、水車で引いた水で麦を作って、収穫して、食べるといった1年間を売り出してみるのをおもしろいと思う。

委員長

その内容であればふるさと納税の体験型として商品化できると思う。具体的な提案の作成を願いたい。

委員

緑化基金を充実化するために公益法人が必要になってくると思うがいかがか。

委員長

現在ある緑化基金を独立した緑の基金にすることが必要であると思う。公益法人である都市緑化基金に基づく基金を創設して、そこへ現在の緑化基金を移行し、緑化のためだけに使えるお金にするべき。そしてその基金にクラウドファンディングやネーミングライツ、広告料等が入ってくるという仕組みづくりが必要である。

以上